



NPO法人 大阪環境
カウンセラー協会 理事
CEAR登録 環境主任審査員
地球環境関西フォーラム
戦略部会委員
大阪産業大学、近畿大学、
鳥取環境大学 講師
吉村 孝史

荒川化学の「環境・社会報告書2011」でまず評価できることは、冒頭の末村長弘社長のあいさつです。3月11日の東日本大震災で、福島県いわき市の小名浜工場が被災され、生産設備や倉庫などの損害に加え、工業用水の供給ストップなどにより、1ヵ月以上工場の操業停止を余儀なくされました。全社を挙げて工場の復旧に努めた結果、5月中旬には全面操業にこぎつけたと、社長が自らの言葉で語っていることは、説得力があります。震災直後、本社に直ちに対策本部を設置し、被災状況の把握に努め、救護活動に着手したこと、被災の小名浜工場では、人員の安全確認を第一に迅速な対応をとったこと、そして自社工場が被害に遭いながらも国内外の工場で代替生産を行い、製品の安定供給に努めたこと。これらはまさにBCP(事業継続計画)を実践した実例です。環境だけでなく、「環境・社会報告書」の名にふさわしい内容であると評価できます。

私はパナソニック(株)在職時、阪神大震災の対策本部のメンバーとして被災工場の復旧と代替生産による製品の安定供給というメーカーの使命を痛感しました。

さて、地球は温暖化や生物多様性などで深刻な環境問題を抱えていますが、荒川化学は高い開発力と技術力によって、製紙用薬品や印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、電子材料などで、有害な素材を使わず、しかも省エネルギーにつながる分野で、特徴的な製品群を次々と世の中に送り出しています。この製品群のさまざまな機能(くっつく・剥がす・丈夫にするなど)で暮らしを快適に、便利にしていることを分かりやすく説明し、環境配慮製品の売上が年々伸び、約半分を占めていることは評価できます。なお、新しい製品分野への発展事例として、

鉛フリークリームはんだの一段の高性能化に成功した新製品の発売とクリーンな過酸化水素を使用した、廃棄物の少ない酸化反応プロセスを開発したことは期待できます。

特に、生物多様性への対応については、昨年取り組みについて意見を述べましたが、「環境保安行動指針」に新たに組み込まれました。さらに、サイト別活動報告の中で、身近な生物多様性の取り組みとして、植樹、メダカ、カブトムシの生育環境の保全など全サイトが地域事情に合わせて実施していることも評価できます。

なお、当報告書の報告内容について提案したいこととして次の2点がありました。東日本大震災と福島原発事故以降、強く取り上げられている「再生可能エネルギーへの取り組み」と「アンケートなどへの対応」です。

■「再生可能エネルギーへの取り組み」については、特に原子力発電・地球温暖化との関係で、太陽光、風力、地熱、水力、バイオなどの再生可能エネルギーへの取り組みが強調され、今後急速に拡大するものとみられます。荒川化学の報告書には再生可能エネルギーに関する内容が見当たりません。省エネルギーに関しては、熱心に取り組まれています。しかし『省エネ』に加えて、エネルギーを非化石・非原子力燃料で創る『創エネ』つまり再生可能エネルギーへの取り組みが求められます。例えばソーラー・バイオなどの導入やソーラー機器等への部材としての参画です。今後の事業の方向のひとつとして検討すべき課題です。

■「アンケートなどへの対応」については、アンケートの結果を報告していることは評価できます。概して、評判がいいわけですが、それに満足することなく少数で耳の痛いことでもできることは対応すべきです。私は3つの大学で各社の環境報告書を学生に読ませ意見を聞いています。「少し字数が多い。文字が多い」「専門的で難しい」「生物多様性取り上げるべき」などがありました。2010年アンケート結果でも「文章が長すぎる」「やや文章が多い」と出ています。2011年度は文章の分かりやすさや文章量の削減にも取り組まれたようですが、今後もアンケートを貴重な意見と捉えていくべきです。

第三者意見を受けて

吉村孝史様より第三者意見として、貴重なご意見、ご提案をいただきました。

まず、社長あいさつの中で言及しました東日本大震災での当社の対応を、第一にご評価いただきました。今回の経験を教訓に、メーカーとして製品の安定供給の使命を再認識し、安定供給体制の一層の強化を図っていきます。

また、ご提案いただきました「再生可能エネルギーへの取り組み」については、関連部材の参画など、当社の今後の事業の方向性のひとつとして、検討していきたいと思います。

今回の特集では生活のさまざまなシーンで活躍する荒川化学の製品を分かりやすく紹介しました。今後も、環境にやさし

い新技術・新規事業の創生を通じて、グローバルな規模で社会に貢献できる企業を目指す当社の事業活動をより分かりやすく伝えていけるように、またアンケートで寄せられた回答に今後も真摯に対応し、環境・社会報告書作りを進めていきます。

今後もよろしくご支援、ご鞭撻の程
お願い申し上げます。



荒川化学工業株式会社
常務取締役
経営企画室長
環境保安担当
谷奥 勝三